海運は日本の生命線

船のお仕事新聞

足立区立
千寿青葉中学校
1年
杉本　優真

海運(海上輸送)の重要性

日本は、資源や材料、食料などの多くを輸入に頼っている(表:日本の輸入割合)。そのほとんどは船によって運ばれている。また、日本国内で製造した製品の輸出も、ほとんどが船で運ばれている。輸出入をあわせた貿易量の99.6%(トン数ベース)は、船による海運(海上輸送)によるものだ。海運の重要性がよく分かる。

表:日本の輸入割合

原　油	99.7%
木　材	67.6%
小　麦	88.0%
衣　類	98.0%

日本人船員の確保

日本では、昔に比べて、船に関わる仕事に就く人が減少している。船には、日本と海外をつなぐ「外航船」と、国内をめぐる「内航船」があるが、どちらも問題を抱えている。外航船の場合、現状、船員の多くは外国人である。もし、外国人船員の方々の祖国で大問題が起きたり、日本の周りで戦争が起きたりしたら、外航船が日本に来られなくなるかもしれない。内航船の場合、船員は日本人なので、日本人船員減少の影響を大きくうけている。これらの問題を解決するためには、日本人船員を確保する必要がある。

感想

日本にとって、海運はとても大事なのに、船に関わる仕事に就く人が減少していることを知って、驚いた。昔、航海士や機関士など、船の仕事は、みんなの憧れだったそうだ。その頃のように、船の仕事を、かっこいい仕事にしていく必要があると思った。

参考文献

・海運と船と港の役割 | 日本海事広報協会
https://www.kaijipr.or.jp/educational/
・暮らしを支える日本の海運 改訂版 | 日本船主協会
https://www.jsanet.or.jp/data/movie/index.html
・海運資料室：海と船のQ＆A | 日本船主協会
https://www.jsanet.or.jp/qanda/text/q4_47.html
・船がないと私たちの生活はどうなる… | オリックス
https://www.orix.co.jp/grp/move_on/entry/2019/11/22/100000
・日本の海上輸送を支える外国人船員について | 商船三井
https://www.mol-service.com/ja/blog/oversea-seafarer-philipino
・カボタージュ制度の堅持 | 日本内航海運組合総連合会
https://www.naiko-kaiun.or.jp/union/union10/

日本の船員を生み出す場所「東京海洋大学」の学園祭に大潜入

東京海洋大学は、国内唯一の海洋系大学で、海に関する研究や人材の育成を行っている。

令和六年六月一日、東京海洋大学 越中島キャンパスにて開催された「海王祭」に行ってきた。船の試乗会、重要文化財「明治丸」・「百周年記念資料館」の一般公開、プラネタリウムの上映、研究室公開、模擬店、○×クイズ、スタンプラリーなどをやっていた。

会場は、子供から年配の方まで、いろいろな年代の人たちでにぎわっていた。船の試乗会が、様々な企画の中でも、大きな人気を集めていた。明治丸は、甲板の上だけでなく、船の中も見ることができた。百周年記念資料館には、船の模型やエンジン、コンパスなど、船に関わるものがたくさん展示されていた。○×クイズは、海に関する問題が出て、大人も子供も楽しんでいた。

↑模擬店

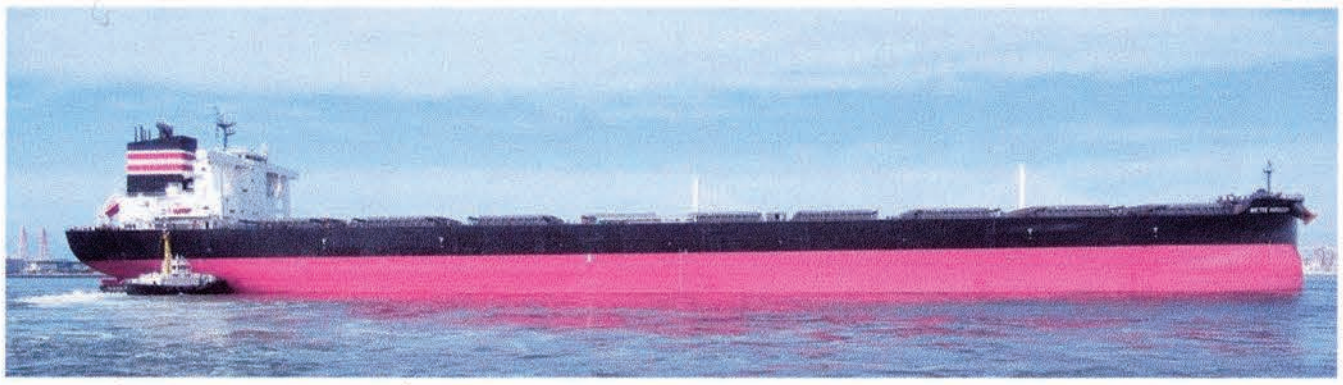
↑明治丸

感想

明治丸の中にあったベッドがとても小さく、「昔の日本人はここで寝られたのか」と驚いた。百周年記念資料館では、歯車の展示がおもしろかった。模擬店で、焼きそばとかき氷を買った。焼きそばは、海鮮がたくさん入っていておいしかった。かき氷は、暑かったので、冷たくて良かった。

楽しい学園祭だったが、研究室公開が少なかったのが残念だ。海洋大がどんな研究をしているのか、もっと知りたかった。また、学生の人たちの参加が少ないように思えた。学園祭は、その学校に入りたいと思うきっかけになる、大事なものだと思う。もっと盛り上げることで、船に関する仕事に就きたいと思う人が増えることにつながると思う。

日本の海運を支える仕事
―港湾荷役の安全監督―



↑全長:299.99m　船幅:50.00m　深さ:25.00m

→荷役中の船の様子

→鉄鉱石の荷揚げ

働く人にインタビュー

実際に船に関わる仕事をされている方に、インタビューをした。元航海士で、現在は、港湾荷役の支援業務をしている方だ。

港湾荷役の「安全監督」とは

外国から日本に荷物を運んできた船が、港で荷物を揚げるときに、その作業が安全・円滑に進むように、支援や監視をする仕事。海外から鉄鉱石や石炭を運んでくる船には、日本人船員が乗っていないことが多くある。そのような船が日本に着いたときに、安全監督が乗船し、荷揚げ作業の現場に立ち会う。外国人船員に助言したり、外国人船員と港湾作業者との意思疎通を支援したり、船内作業の安全確認を行う。また、作業の内容や経過をまとめた文書を作成し、報告する。

この仕事の良い所

船に乗っている外国の方々と交流ができること。船員達の祖国について話を聞くことができる。また、いろいろな国の料理を食べることができる。

↑豚の丸焼き

↑ビーフステーキ

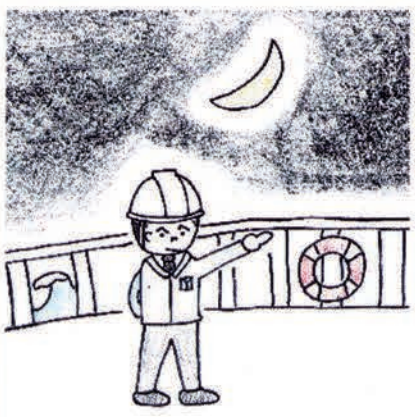
この仕事に必要なもの

航海士の資格がいる。また、船の運航や構造についての知識、外国航路を航海した経験なども必要。

ある程度の英語能力や、急な計画変更に臨機応変に対応できる能力なども求められる。

この仕事の大変な所

計画変更があったときなどに、待ち時間がとても長くなったり、夜中に起きなければならなかったり、長時間の作業が終わるまでずっと船の中にいたりしなければならないことがある。



安全監督から中学生へのアドバイス

↑船の中で誕生日パーティー

「どんな職業に就くにしても、今後、外国の方々と接する機会が益々増えていくと思う。語学力、特に英会話の能力が必要になってくるので、しっかり学習してほしい。」

感想

珍しい仕事だと思った。同じような仕事をしている人は、日本に百人くらい、とのことだった。

向いている人には楽しそうだが、向いていない人にはとても辛い、向き不向きがはっきりした仕事だと思った。

今回インタビューした安全監督の方は、「この仕事で辛いと思ったことはない」とおっしゃっていた。大変そうな仕事なのに、すごいと感じた。